

4. 刊行物、主催会議等

気象研究所の研究成果は、気象庁の業務に活用されるほか、研究所の刊行物、研究成果発表会などを通じて社会に還元している。

また、関連する学会や学会誌などで発表することにより、科学技術の発展に貢献している。

4. 1. 刊行物

気象研究所研究報告 (Papers in Meteorology and Geophysics)

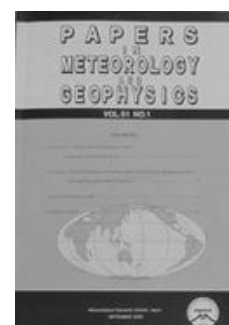
研究成果の学術的な公表を目的とした論文誌 (ISSN 0031-126X)。

気象研究所職員及びその共同研究者による原著論文、短報及び総論 (レビュー) を掲載している。主な配布先は、国の内外の研究機関・大学、気象官署などで、国立国会図書館でも閲覧することができる。

平成 17 年度からは、独立行政法人科学技術振興機構が運営する科学技術情報発信・流通総合システム”J-STAGE” に登録し、オンライン発行とした。

J-STAGE URL: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/mripapers>

令和元年度の発行はなかった。



気象研究所技術報告 (Technical Reports of the Meteorological Research Institute)

研究を行うなかで開発された実験方法や観測手法などの技術的内容や研究の結果として得られた資料などを著作物としてまとめることを目的とした刊行物 (ISSN 0386-4049)。主な配布先は、国立国会図書館、国内の研究機関・大学、気象官署などで、気象研究所ホームページ (<http://www.mri-jma.go.jp/>) でも閲覧することができる。

令和元年度は第 83 号を発刊した。

第 83 号「日本沿岸海況監視予測システム 10 年再解析値 (JPN Atlas 2020)」

(広瀬成章, 坂本 圭, 碓氷典久, 山中吾郎, 高野洋雄)



4. 2. 発表会・主催会議等

・気象研究所研究成果発表会

気象研究所の研究成果を広く一般に紹介し、社会的評価を高めることを目的とした発表会で毎年 1 回開催している。令和元年度は、令和元年 12 月 7 日 (土) に一橋大学一橋講堂 (東京都千代田区) で開催し、以下の研究成果について発表した。

【報告題目】

- ・次世代気象レーダー「フェーズドアレイレーダー」～危険な風雨を捉え、災害を防ぐ～
報告者：足立 透 (台風・災害気象研究部 主任研究官)
- ・地球温暖化によるアジアの降水変化～日本の梅雨はどうか～
報告者：遠藤 洋和 (気候・環境研究部 主任研究官)

- ・ 南海トラフで発生する「ゆっくりすべり」を捉える
報告者：露木 貴裕（地震津波研究部 主任研究官）
- ・ 台風予報改善のための研究の最前線 ～社会の多様なニーズに応える～
報告者：山口 宗彦（応用気象研究部 主任研究官）

・ 第1回環境研究機関連絡会研究交流セミナー

「生態系ネットワークの保全と再生」

気象研究所を含む13の環境研究に携わる国立試験研究機関、国立大学法人及び国立研究開発法人が参加する「環境研究機関連絡会」が主催する研究交流セミナー（平成15年度～平成30年度までは環境研究シンポジウムを実施）で、参加する研究機関が成果の発表を行っている。令和元年度は、12月13日（火）につくば国際会議場において開催され、気象研究所は以下のポスター発表を行った。

【ポスター発表】

発表名：地域気候モデルで予測された日本の将来の気候

発表者：村田 昭彦（応用気象研究部 室長）